

## 平成 22 年度第 2 回公立大学法人滋賀県立大学経営協議会議事録

日時・場所：平成 22 年 9 月 7 日（火）10：00～12：15 評議会室

出席者：曾我理事長、川口副理事長、大田理事、菊池理事、仁連理事、北村委員、吉川委員、高橋委員、南委員、結城委員

事務局：堀部事務局次長、坪田総務グループ統括、小島財務グループ統括、高田経営戦略グループ統括、杉野学生・就職支援グループ統括、藤野教務グループ統括、郡田図書情報グループ統括、久保田地域貢献研究推進グループ統括、松野副参事、吉田副主幹、矢野主査

議事に先立ち、定款第 18 条第 2 項第 4 号に規定する経営協議会委員として 8 月 1 日付けで選任された結城委員に対して、曾我理事長から委嘱状が交付された。

### 【議 題】

#### (1) 平成 22 年度第 1 回経営協議会議事録（案）について

事務局から報告があり、一部字句修正の上、原案どおり承認された。

#### (2) 予算編成方針について

川口副理事長から資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

委員からは、科学研究費補助金の獲得状況は大学全体の活動状況を表す上で非常に重要であるのでわかりやすく示す工夫が必要である、間接経費の用途は今後ますます重要になってくるので大学としての考え方を明確にするべきである、との意見があった。

また、公立大学の運営経費は地方交付税交付金という形で自治体を経由して交付されるシステムとなっているが、国立大学や私立大学のように直接公立大学に交付されるシステムに変えていくべきではないか、一方、公立大学協会を通じて要望を行っているが法体系が異なっているので非常に難しい、との意見があった。

#### (3) 教育研究組織の新設について

菊池研究・評価担当理事から資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

委員からは、新学科について、アドミッションポリシーなどに特徴をもっと強く出す必要がある、TOEIC の点数を到達目標に置くのであれば達成するための具体的方策を示す必要がある、との意見があった。これに対しては、本学は国際化という観点でやや遅れている面があり、ご意見を検討のうえ新学科を設置することにより全学への波及効果を期待したいとの回答があった。

また、企業が欲しい人材は語学ができるだけでは不十分であり、語学に加えて何ができるかがポイントであるとの意見があった。

#### (4) 議事録の公開について

高田経営戦略グループ統括から資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

## 【報告事項】

- (1) 平成 21 事業年度の業務実績に関する評価結果について  
菊池研究・評価担当理事から資料に基づき報告があった。  
委員からは、「教育研究等の質の向上」の項目の評価はB評価が続いており、A評価、S評価を目指す努力が必要であるとの意見があった。
- (2) 大学運営に関する指標について  
事務局から資料に基づき報告があった。
- (3) 平成 22 年度第 1 四半期決算の概要について  
小島財務グループ統括から資料に基づき報告があった。

## 【その他】

文部科学省の「平成 22 年度大学教育・学生支援推進事業 大学教育推進プログラム」に、本学が申請したプログラム「地域学副専攻化による学士力向上プログラム」が採択された、との報告があった。